

会議の概要

令和7年度 第9回 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 大玉中学校学校運営協議会 ○ 大玉村地域学校協働本部 第3回地域教育協議会

日時：令和8年2月25日（水）18:30～20:30

場所：改善センター1階 多目的ホール

（ 進行：事務局〈指導主事〉 星 雅人 ）

- 1 開会のことば （ おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都 ）
皆さんこんばんは。先日は大変お世話になりました。今年度最後になりますが、これより令和7年度第9回おおたま学園コミュニティスクール委員会（以下CS委員会と略記）を始めます。どうぞよろしくお願いいたします。

- 2 教育長あいさつ （ 大玉村教育委員会教育長 渡辺 敏弘 ）

改めまして皆さんこんばんは。本日はお疲れのところ、今年度最後のCS委員会並びに地域教育協議会にご出席をいただきましてありがとうございます。また、先日のおおたまコミュニティ広場でも大変お世話になりました。おかげさまで有意義な雑談の場になったというふうに思っております。また、さらにその後行われましたイベントにも多くの皆さんにご参加いただきまして、重ねて感謝申し上げます。

さて、今年度最後の会の内容としては、令和8年度の各幼稚園、学校の経営運営方針についてご意見をいただき、最終的にそれについてご承認をいただき、さらに、令和8年度のCS委員会の活動方針や計画についてご審議をいただき、また、地域教育協議会を兼ねておりますので、そこでは今年度の取り組みを総括し、次年度に繋げていくことになっておりますので、併せてよろしくお願いいたします。次年度も大事な部分は継続しつつ持続可能な運営となるように、少しずつ検討を加えながら、やっていければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



- 3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （ CS委員会会長 矢吹 吉信 ）

皆様改めましてお晩でございます。本日もお忙しい中お集まりをいただきまして本当にありがとうございます。

教育長と重複しますが、21日のコミュニティ広場は盛り上がりました。本当に皆様のおかげです。感謝申し上げます。ありがとうございました。毎回なのですが、会の後には「何ができるんだろうか」、「何をやっていくべきなんだろうか」というふうな思いがあります。

今日は盛りだくさんの内容となっております。今年度最後のCS委員の集まりになりますが、来年度にうまく繋がるように慎重審議の方よろしくお願いいたします。

- 4 諸連絡 本日の日程・内容について （ 事務局 星 雅人 ）
～略～

- 5 協議 （ 座長 CS会長 ）

（1）令和8年度各校園の経営・運営の方針等について（要点を抜粋）

① 学校関係者評価委員会について（学校関係者評価委員長より）…詳しくは資料参照

(座長) 暫時座長を務めさせていただきますよろしく申し上げます。それでは、学校評価委員長から報告をお願いします。

【 大山幼稚園 】

(CS委員 佐藤 史江)

どの重点目標も結果についてよく分析されていて、改善が必要な項目についても具体的な方策がきちんと挙げられていた。保育参観では、いつ参加しても子どもたちが伸び伸びと楽しく遊んでいる姿を見ることができる。先生方が、日々子どもたちのことを思って、工夫や配慮をしながら保育を行っている成果であると思っている。

(1) 「なかよく遊ぶ子」(身近な人とかわらうとする子の育成) について

→ 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切な項目A

- 幼稚園では、なぜ言葉が必要なのか、なぜやってはだめなのか等の指導を年間を通してやってきている。細かく丁寧に伝える等、子どもたちの姿を認め、褒めて伸ばそうとしている。
- 今の時期だからこそ経験できる小さなトラブルや心の葛藤をたくさん経験させて、その中からの学びを大切に、次に繋げていってほしい。
- 折り合いをつけることはとても大事で、なかなか幼稚園の年齢では難しいこともあるが、お互いに言いたいことを言い合いながら、妥協点を見つけていけるようにしていく必要がある。お互いが少しずつ妥協点や着地点を見つけていけるような力を幼稚園の時からつけさせて、就学に繋げることが望ましい。

(2) 「元気に遊ぶ子」(心も体も健康な子の育成) について

→ 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切な項目A

- 環境の変化で高温の日が続いたり、感染症や不審者、野生動物(クマ)などの対策をしたりと、幼稚園でもとても大変な1年だったと思う。今後も多くの課題が予想され、やはり園だけでは難しいこともあるので、そういったときには行政の協力も必要になってくる。
- 生活の基盤となる「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣がだいぶ身についてきたということがアンケートからも読み取れて大変よかった。
- できないことや困難に立ち向かう経験を乗り越える経験を積んで、諦めない心の育成に繋がっているということもアンケートから読み取れた。先生方の根気強い頑張りが伝わってくる結果だと思う。幼稚園では、保護者と共感していくことが、子どもたちの成長に大切になってくる。幼稚園は、保護者の方と直接話せるという幼稚園ならではの強みがあるので、今後も保護者とコミュニケーションをしっかりとって、共通理解を深め、子どもたちの更なる成長に繋げていってほしい。

(3) 「進んで遊ぶ子」(自ら進んで意欲的に学ぶ子の育成) について

→ 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さA

- 子どもたちは、自分の意見をいっぱい話せるようにはなってきたのだが、聞く力がまだ身についていないということで、聞く力を鍛えるゲーム等を意図的に取り入れているということである。工夫している点が素晴らしい。
- どんな遊びをしたいのか子どもたちと話し合うことで、ただ先生が環境設定した中で遊ぶというのではなくて、自分たちで考えることで主体的に遊ぶ姿に繋がり、子どもたちの“楽しむ”を広げていっている。
- 十分に遊びこむことが、幼児の集中力を養うことに繋がるということがわかった。その力が小学校の授業での集中力にも繋がるため、今後も幼稚園でそういった土台作りをしっかりとって就学に繋げていってほしい。

【全体意見】

- 園だけでは難しいところがやはりあるので、行政の支援が必要な点もあると思う。教育委員会にも園の現状を見てもらって、必要に応じて現場に応じた支援ができるよう連携していく必要がある。
- 言葉で伝えることができるように、日頃から子どもたちの声を聞いて、気持ちの伝え方など細かく先生方が配慮している。小さな成功体験と繰り返し調整できるような環境作りをしており、先生方の日々の努力は素晴らしい。

【 玉井幼稚園 】

(CS委員 平 佐代子)

1月29日に評価委員会を実施させていただいた。玉井幼稚園でも3つの目標がある。

(1)「自ら考える子ども」(自分で考え、進んで行動できる子ども)について

→ 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さA

- 今年度、年長クラスと年中クラスの教室の場所の入れ替えをしている。とても大がかりな配置換えだったと思うのだが、この環境の見直しをしたことで、年長の子どもたちは、自分たちで遊びをしつかりと作り出すことができるような環境になっていた。
- 年中クラスについて … 年長と同じように外遊び、室内遊びの両方がしやすいようになっているが、加えて、室内にある絵本コーナーに活動できるスペースが確保されたことにより、園の中がとても落ち着いた雰囲気、「いつでも遊べる、いつでも楽しめる」ところになった。
- 幼稚園では、園児が遊びから学ぶことが大きいと言われている中で、この施策を実施したことは、発達段階における遊びの設定や、自ら遊びを選択する“自由選択の力”を養うことに繋がっていった。主体性を育てるのに大きく関与している取り組みだと感じた。
- 聞く力を育てるために、絵本の読み聞かせを継続して行っていた。この絵本の読み聞かせに加えて、来年度から絵本の日を新設したいという意見があった。内容としては、園児が自分が読みたい本を自分で選んで、異学年の園児や担任以外の先生に読んでもらうという活動である。この絵本の日が定着していけば、子どもたちは自分で本を選んで、この本を読んで欲しいという気持ちを言葉を通して伝えることが求められる。慣れた環境を超えて、思いを伝えるコミュニケーション力の育成にも期待が持てると思うので、大いに続けてやってほしい、新しい活動に取り組んでほしいと思った。
- 玉井幼稚園は、室内、屋外を問わずに、五感を使って遊びこめる環境がすごく整っている。日常の遊びから、「なぜ?」とか「どうして?」と不思議に思うことがたくさん発信されてた。子どもたちが「やってみたい」、「面白い」と感じる事が、五感を使った遊びの醍醐味であり、五感の刺激になっていると感じた。恵まれた自然や風土を資源として大いに活用することによって、園児たちの体や心の成長に繋がっていくことが期待できる。



(2)「心豊かな子ども」(思いやりのある子ども)について

→ 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さA

- 2学期から保護者に園児をクラスまで送って来てもらうようにし、先生と挨拶を交わしながら家の状況とかの引き継ぎをするようになった。その様子を見ている子どもたちが、「大人はちゃんとこんなふうに挨拶するんだな」ということを自分たちなりに考えて、友達同士や先生に対して自分から「おはようございます」と声をかけて、挨拶をする姿が増えたということを知った。挨拶することで自分の存在が認められたという深い安心感を与えることができているなと感じた。地道な活動ではあるが、家庭と連携しながら続けてほしい。
- 園庭に花壇があって、野菜を育てることで自分たち以外のものにも思いやりの気持ちを持てる温かい環境ができている。幼児期は自我が芽生える時期であり、気持ちに折り合いをつけることがとても難しい時期と言われている。感情のコントロールが難しい幼児に対しては、場の設定の配慮やそれぞれの気持ちを受けとめて、寄り添う援助をしていただいているところではあるが、なかなか幼稚園だけでは難しいケースもたくさんあるというふうにした。関わりの難しいところは、外部の力を借りて、いろんな方法を考え、幼稚園だけの負担にならない対応をしていただくことをお願いしたい。
- 今後の計画として、幼稚園開放日を設けたいというお話である。この開放日を設けるにあたっては、広く地域の人に伝える方法を検討していただきたいと感じた。昨今 部外者や不審者の侵入などの事件もあるので、より安全、安心に新しい活動に取り組んでいただきたい。
- 豊かな体験活動を充実させることを目的に、玉井小学校や大山幼稚園、地域の住民との交流の充実を実施している。年長に関しては、地域に行き一緒に活動することで声をかけることはできていると思うが、年少に関しては、渉外活動の難しさがあるように感じた。外部との交流も大事だが、年少に関しては、まずは自分たちのクラスの中や園の中での体験活動を充実させることを提案した。

(3)「たくましい子ども」(目標に向かって挑戦できる子ども)について

→ 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さA

- 玉井幼稚園を取り巻く自然環境を大いに活用し、外遊びを積極的に実施している。また、自然体験を日常の活動活動の中に取り入れている。自由に体を動かして、ダイナミックな遊びをしているためか、私たちが訪問したときの園児は笑顔がいっぱいであった。元気に楽しく遊んでいて、ストレスフリーな様子が見られた。
- 屋外の活動においては、昨今の異常気象による害虫、害獣の出没や園児の見失い、連れ去り等の被害を想定し、教職員全員による災害時の対応マニュアルの確認、災害時訓練、こまめな人員の点呼等の「もしもに対応できる事前の対策」に万全を期するよう重ねてお願いした。
- 諦めない心を育てるため、チャレンジカードを活用し、園児たちが自分の目標に向かって諦めないで繰り返しチャレンジする強い心を育てていく取り組みをしている。目標を達成した達成感であったり、うまくできた時の成功体験にも繋がっていく相関性のある良い取り組みである。また、子どもたち一人一人の体力や発達を見極めたハードの設定も併せてお願いしたい。
- 幼稚園の時に、実際にこんなことができるという「幼児期運動指針」がある。これについては、保護者に示されておらず、問い合わせもあるということなので、これについては、小学校に入るまでに「こんな動きができればいいですね」というような感じの参考資料的な内容を、お便りを通して伝えてもらいたい。

【 全体の意見 】

- 保護者のアンケートの結果からも窺えるように、幼稚園に対しての信頼は絶大である。今後も家庭に寄り添いながら、大玉村の財産である子どもたちの成長に尽力いただきたい。
- 地域住民との関係性が良好であることが、幼稚園に関わる支援ボランティアが多いことから感じられた。教育は幼稚園や学校に任せる時代ではなくなってきた。少子化が加速する現代では、地域共生・地域のコミュニティを大切に子育てをしなければならぬことを改めて実感した。
- 令和8年度は玉井幼稚園園児数が148人に増える見込みと聞いている。安心、安全に配慮した教職員、支援員の十分な配置を希望するとともに、教職員の業務作業の効率化や簡素化を推進することで、働きやすい職場作りに繋げていってほしい。

【 大山小学校 】

(CS会長 矢吹 吉信)

(1) 「進んで学習する子」(進んで学習する子の育成) について

→ 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さA

- 授業を参観し、子どもたちの笑顔を見てからの学校評価を行った。本当に自ら進んで学習しているということがよくわかった。
- できる子とできない子が二極化しているということを感じたという意見が出た。できる子は手を挙げていろいろノートに書いているのだが、できない子は下を向いていて活動が進んでいない様子が見受けられ、非常に気になった。

(2) 「なかよく助け合う子」(なかよく助け合う子の育成) について

→ 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さA

- 感情のコントロールができない、うまく関係性を築けないという子もいるという話もあったが、その辺については今後の課題であると思う。
- 学習内での学習以外に、外部での体験活動をなるべく取り入れていってほしい。その場で自分の得意分野に気づいたり、思いやりの大切さを学んだりできる機会になるということを感じた。教室の学びもちろん大事なのだが、なるべく外での体験活動も取り入れていってほしい。

(3) 「健やかでたくましい子」(健やかでたくましい子の育成) について

→ 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さA

- 先生方が休み時間に積極的に外で子どもたちと遊んでいる姿が多く見られており、非常にいいことであるという意見が出た。
- 学校でできること、個人でできることには限りがある。家庭や地域の協力は不可欠である。
- メディア使用については、児童・保護者双方の認識の甘さも乖離の原因ではないか。「正しく使えているか(児童)」、「子どもの利用状況を正しく把握しているのか(保護者)」を明確にすることが大切と考える。

【 全体の意見 】

- 現在、支援を要する子どもへの対応が増えていて、それで先生方がなかなか人手が足りないという場面があると聞いている。この辺も課題であるので、行政等と一緒に取り組んでほしい。
- 学校でできることには限界があるので、CS委員と地域等に協力を申し出ていただいて、進めていただきたい。

【 玉井小学校 】

(CS副会長 吉田 都)

(1) 「自ら学ぶ子ども」(主体的に学び、学んだことを活用し、表現できる子ども)について

→ 自己評価の適切さB、改善に向けた取り組みの適切さA

- 子どもは比較的遠慮気味に書いていると感じた。特にこの「自ら学ぶ」ということで、学習や自宅学習に関しては、子どもは「やっている」、でも保護者から見ると、「そうとまでは」という差が出ていた。保護者によって、どこを見て子どもがやっているか受け止めるのかには違いがある。(テストの結果 etc.) その差が少しあるのは仕方がない。
- 「お子さんは授業の内容よくわかっていますか」… 「以前よりも少しずつわかってきている」、「自分でわかっている」、「大体わかっている」の数値が上がってきているという結果だった。
- 朝の「ぐんぐんタイム」についても、前よりも時間を増加しているということで、朝の学習の時間に時間を費やしていたということが読み取れた。
- 家庭学習の目標で「10分×学年+10分」というのがある。いっぺんにそこをみんな同じ基準でというのはなかなか難しいかもしれないが、一人一人が少しずつ時間を増やしていけると良い。
- 達成としてはBだが、(学校から決めてもらうのではなく) チャレンジタイム等で「自分で何をするかを決めて、その達成に向かって頑張る」ということに熱心に取り組んでいた。

(2) 「心豊かな子ども」(お互いを認め合い、ともに高め合う子ども)について

→ 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さA

- 学校全体として、児童の作品等が廊下や教室の中に展示されているのももちろんだが、他学年の作品も見たりできるようないろいろと掲示の配慮がなされていた。また、地域の方の作品、生け花等も廊下等に飾ってあり、子どもがそういうものを見る機会があってとてもいい。
- 学校関係者評価当日に私たちも授業を参観させていただいたのだが、子どもたちは地域との交流についてそんなに抵抗はないのがいいと思った。私たちの時代だと、他の人が教室に入るとキョロキョロして落ち着かなかったのだが、外部の人が何人か入ってきてても特に抵抗もなく、挨拶をしながら授業をそのまま続けるという、それが自然とできていることがすごいなと思った。

(3) 「たくましい子ども」(健康な生活への目当てを持ち主体的に実践できる子ども)について

→ 自己評価の適切さB、改善に向けた取り組みの適切さA

- 「毎日朝ご飯を食べていますか」というところで、以前よりも朝ご飯を食べている人数が多くなってきている。(私の年代からすると、朝ご飯を食べないというのが驚きというものもあるのだが、) 食べられない状況なのか、食べたくないのか、作ってもらえないのか、そこも難しいところではある。中学生なら自分で食べることができるが、小学生だとなかなかそういうことが難しい。たくましい体づくり、健康な体づくりをするためには朝ご飯が大事なので、保護者へのアプローチが必要という意見があった。そこをどううまくしていくかが難しいところである。(アンケートや朝食の調査調査がある時は、あわてて朝食を整えて作ってアンケートに出すということもある…)
自然と何かしら(味噌汁とご飯だけでもいいですけども)きちんと朝ご飯を食べてくるという流れができるようになるといういいというお話をさせていただいた。
- 業間の時間に外で遊ぶよう工夫されている。学年全体で遊ぶと交流もできるので、とてもいいのではないかと思う。体育委員等の子どもたちが、自分たちでどんなことをしたらみんなで遊べるかを考え、工夫して取り組んでいくのもいいのではないかということをお話しさせていただいた。遊具、竹馬等もあるとのことなので、どんなふうに使ったらいいか、どんなことをして体を動かしたらいいのかについて考える機会になればと思う。勉強が遊びにも繋がっていけばいいと思っている。

【 全体の意見 】

先ほども述べたが、学校内にいろいろな掲示物や児童生徒の作品、地域のボランティアの様子が貼ってあったり、作品が置いてあったりする。校内の活動だけでなく、地域とのふれあいの環境も整って

ると思った。また、水道の所でうがいをする、天井にうがいの仕方が貼ってあった。そういう工夫等もされていてとても素敵だと思った。今後も継続して改善に繋げていただければと思う。

【大玉中学校】

(CS副会長 浅和 博栄)

目指す学校像、学校経営の方針という部分については、「楽しい学校をつくる～わかる・できるの授業をベースに、魅力と必要性の高い学校で、生徒が自己有用性を感じ、教職員がやりがいを感じられる学校」となっている。

(1)「学校運営の基本方針」(学校教育目標の具現化に向け、教職員が一体となって計画的・組織的に取り組む) → 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さA

① 学校教育目標達成に向けての組織的取り組み

- ・ 「目指す学校像」への教職員、生徒、保護者の理解が高くなってきている。これは、教職員間のコミュニケーションがとれ、情報交換、共有がされており、さらには、そこから生徒・保護者への情報発信が適切に行われているためであると思われる。引き続き組織的取り組みとして、トップダウンとボトムアップ双方の関係強化により教職員一人一人の理解を深めてながら、生徒・保護者へ伝え、同じ目標に向かって、一体感を持ってよりよい取り組みに繋げていただきたい。

② 夢の実現へ努力する生徒の育成

- ・ 生徒たちのアンケート結果が少し低い数値になっていた。高校受験のような現実と直面した際、生徒自身が何をどうすればいいのか迷っているのではないかとと思われることから、この夢の実現、そして学びをどう関連づけていくのか、キャリア教育からのアプローチということで今後期待をしていきたい。

③ 研修の充実と指導力の向上

- ・ 教育の環境が変わってきている中、先生方の苦勞も多いと思われる。また、併せて保護者もどういふふうになっていくのかと不安に思っている部分もあるのではないかと。

(2)「自学：意欲をもって万部生徒(知育)」(「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、確かな学力の向上を図る) → 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さB

④ 積極的な事業参加と学習内容の理解

- ・ 大きな課題として共有したことは、「中学の進学時には既に学習意欲が低い生徒がいる」ということである。おおたま学園の取り組みとして、幼・小・中ともに共通課題としての共有認識が必要であり、さらには連携した対策を講じていく必要があるのではないかと。

⑤ 自主的、計画的な家庭学習

- ・ 具体的な数値として、学校の学習だけで偏差値50を目指す授業改革を掲げている。先生方としても目標が明確になった中で、指導力の更なる向上等の意識付けに変化が期待できると思われる。ただ、生徒たちが全体的に偏差値50以上になっていくことを目指すことで、数字だけが独り歩きしてしまうことのないような注意も必要ではないかと。
- ・ 家庭学習の習慣の定着を図る上でも、例えば予習・復習とか、宿題を実施していくということが重要な位置づけになってくるのではないかと。例えば、長期休暇の過ごし方、また宿題のあり方を含めて、おおたま学園としての一貫した共通の取り組みも検討していかなければならない。
- ・ ICTツールのアプリ等を活用して、生徒が自分で課題を選べたり、今のレベルに応じた内容を学べたりするような宿題のやり方、そういったことも先生方が負担に感じることがないように取り組んでいく必要がある。

⑥ ICT機器を活用した授業の取り組み

- ・ 数年経過してはいるが、まだまだ使いこなすのはまだまだという感じである。現在進行形というところなので、改めて研修制度の充実、またそういった時間の確保、さらには専門家の授業の参観等が必要ではないかと。
- ・ (今の保護者は経験がない方が多いので)保護者にとっても、ツール(ICT機器)を使って、授業や家庭学習にどんなふう利用できるのかについて情報共有も必要ではないかと。

⑦ 体験的学習と交流活動の充実

- ・ 地域学校協働本部を中心として素敵な充実した素晴らしい活動が実践されているが、若干先生方

の受け取り方もいろいろ（温度差が）あるというところで、先生方、生徒たちが主役となって、さらには達成感を味わえるような活動の質を上げていけるよう検討が必要である。

(3)「共栄：認め合い、高め合う生徒(徳育)」(地域や社会とつなぎ、多様な人々との心の交流を通して、豊かな人間性や社会性を育む) → 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さA

⑧ 地域貢献活動の推進

- ・ 大玉村では地域の方々との活動が多く、またそういった交流から学ぶことも多く、そこから成長に繋がっていると思われる。今後は、生徒たち自身が地域貢献をどういうふうにつまみ、今の自分のできることに、また将来大人になったらできることは何かを考えることが大切である。活動を継続させながらも、生徒たちの視点に立った見直しも若干必要ではないか。

⑨ 自己有用感の向上

- ・ 他者との関わりの中から自己有用感は生まれる。子どもたち相互の評価の場面だったり、活動の良かったことを議論したりするような場を設定するのもいいのではないか。また、それをキャリア教育と連携させていくことは非常に素晴らしい取り組みに繋がると思われる。(期待感が大きい)

⑩ 道徳教育の充実

- ・ 先生方一人一人が、「いじめは絶対に許さない」という強い意志を持って日頃から生徒たちに接したり、少しの変化、または予兆を見逃すことなく早い段階から話を聞き、駄目なことは駄目と組織的に指導対応していくことが大切であると思われる。あわせて、専門家によるアサーション(自己表現)トレーニング等の授業や外部講師を招いた授業を取り入れ、生徒にとって身近な大人以外から社会的責任を学ぶことも、日頃から先生方が指導している内容についての理解力を深めるという観点から有効ではないか。

(4)「自鍛：自ら心身を鍛える生徒(体育)」(望ましい生活習慣の確立に向けた健康マネジメント力の育成と体力向上に取り組む) → 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さB

⑪ 基本的な生活習慣の定着

- ・ 「早寝・早起き・朝ご飯」は、幼稚園の頃からずっと言い続けられているが、改めておおたま学園として共通した一貫性が必要な軸の一つとして取り組むことが必要ではないか。また、保護者についても、生活習慣病の予防などと一緒に捉えて、村全体の取り組みとして検討していくといいという意見も出ている。

⑫ メディア使用のルールへの遵守

- ・ デジタル・シチズンシップ教育ということで、前向きに捉えながらというところではあるが、「駄目なものは駄目」ということをしっかり時間を確保して生徒たちへ指導することが必要である。また、保護者としても、今の時代のメディアの使用に関しては本当に知識が不足している。チェックシート等を作成・活用して、保護者が子どもと一緒に安全な設定について話し合いができるようなことも必要ではないか。

⑬ 意欲的な運動への取り組み

- ・ 運動の目的は多岐にわたっており、それぞれ体力的にレベルの近いグループ同士での運動への取り組みを促していくことも必要なのではないか。
- ・ 部活動の地域展開については、部活動ごとに環境が異なっているので、先生方だけの負担にならないように関係機関とも連携していく。また、保護者からの意見・要望等も反映させながら、教育の一環であることを前提に指導者と生徒の良好な関係が構築され、指導が行き届くようにしていくことが望ましい。
- ・ 部活動の地域展開の進捗状況ということで、随時、情報の発信をすることにより保護者の不安払拭に繋がるのではないか。

(5)「地域と共に歩む学校づくり」(社会に開かれた教育課程を実現し、地域と共に歩む学校づくりに務める) → 自己評価の適切さA、改善に向けた取り組みの適切さB

⑭ 地域の特色や人材の活用

- ・ 改めて保護者を含めた地域人材の活用に繋げていく。

⑮ 学校・学年だより、SNS 等による情報発信

- ・ インスタグラムはタイムリーな情報発信ができるということで、保護者からも評価が高く、今後も

継続をお願いしたい。

- 発信ばかりではなく、例えば保護者からの情報収集などにも利用できるようにしていくことも良いのではないか。

⑩ おおたま学園による幼・小・中の連携

- 「おおたま学園だからこそできることがある」… 園長・校長先生の課題や統一の取り組み事項等、情報共有と学校運営方針への共通一貫した取り組み、連携を徹底していくことが重要である。
- おおたま学園の各委員会にCS委員会が参加し、現場の先生方の意見を積極的に聞く等、いろいろと活動に取り入れることも必要ではないか。まさに「地域とともに歩む学校づくり」ということで実践をしていければいい。

【 総括評価 】

- 概ね適切というような意見となっている。教育環境の劇的な変化の途中であり、先生方の負担面も働き方改革の中で改善を図りながら、よりよい教育活動に繋げていただけるようお願いしたい。
- 教育環境が変化することの情報不足によって、同じように保護者が不安になっているということが考えられるので、ICTを活用したこまめな情報発信をしていただきながら、教職員、生徒、保護者が同じ方向性で理解し、一体となれる学校運営がされること望ましい。
- おおたま学園の取り組みについては、やはり学校長間の課題共有と一貫継続した共通の取り組みが可能であることから、今後の更なる取り組みに期待したい。

(座 長) みなさん、学校評価本当にありがとうございました。

それでは、続いて②「令和8年度各校園の経営・運営の方針説明」に移ります。大山幼稚園よりお願いします。

② 令和8年度各校園の経営・運営の方針説明（各校・園より）

【資料：各校・園 令和6年度学校運営の方針（学校運営ビジョン）】

【 大山幼稚園 】

(副園長 二瓶 博子)

- 教育目標は大山小学校と同様で、『目指せ夢に向かってがんばる子』～地域と共に、自らの夢に向かって努力し、未来を拓く子どもの育成～
- 重点目標も本年度同様、「仲良く遊ぶ子」、「元気に遊ぶ子」、「進んで遊ぶ子」の3つを挙げた。来年度も子ども一人一人に寄り添いながら「目指す幼児増」に向かって保育を充実させていきたい。(学校評価委員からの意見も参考にした)
- (1) 『なかよく遊ぶ子』(身近な人と関わろうとする子の育成)
 - 今年度の課題としては、言葉は出るようになったが、一方的な思いが多く見られた。8年度は折り返いをつけることに対するトレーニングを重視したいと考えた。そこで、①の「社会性を学んでいく場の設定」に、ウとして「相手の気持ちに気づき、自分をコントロールする力の育成」を入れた。また、②に「園外保育など社会体験の充実」を入れ、その中で様々な体験活動やルールを守ることを実体験の中から育てていきたいと考える。
- (2) 『元気に遊ぶ子』(心も体も健康な子の育成)
 - 今年度の課題として、基本的な生活習慣の確立の中で、保護者と幼稚園との共通認識不足、また発達に合わせた基礎体力向上等が挙げられたので、無理なく遊びながら運動遊びができるよう工夫していきたい。
 - 弁当給食が始まり、自分の好きなものだけでなく、いろいろな食材が提供されたことで、親子で食に関心を持つようになってきた。
 - これらのことから、②の「健康で安全な生活をする力の育成」に「食育」をつけ加え、また、「クマ対策」等も挙げ教育計画に入れるようにし、安全対策の強化を考えている。
- (3) 『進んで遊ぶ子』(自ら進んで意欲的に遊ぶ子の育成)
 - 今年度の課題として、「主体的・対話的な学び」について、だいぶじっくりと遊べるようにはなっているが、遊びの振り返りの時間からの反省点で知識活用応用力の部分が不足していることがわかった。来年度は、さらに深い学びに繋がられるように、「好きな遊びを選択してできるような環境の工夫」、そして、「自分の気持ちをきちんと主張し、友達とたくさん言葉を交わし、聴き合う体験の充実」、それから「活動を振り返り、次に繋げていく場面の工夫」を入れて、さらに深い学びに繋がられるよう

にしたいと考える。

令和8年度も子どもたちが安心して自分の好きな遊びに没頭し、その中で様々なことを学び、成長し、就学に繋げていけるようにしていきたい。

【玉井幼稚園】

(副園長 後藤 弥和子)

- 教育目標は玉井小学校と同じで、『自分やふるさとに誇りを持ち、夢や希望に向かう子ども』。幼稚園教育アンケートをもとにして、「思いやりのある子どもになってほしい」、「元気で楽しくのびのびと育てほしい」、「自立そしていろいろなことに挑戦してほしい」という保護者の思いの3点も明記した。
- 「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」については、村の3つの重点と同様に、「思考力」、「言葉による伝え合い」、「道徳性・規範意識の芽生え」ということを保護者の方も思っているため、そこも重点とした。重点実践事項については、今年度の反省と教育委員会からの指導の重点から設定した。
- 目指す教師像についてちょっと変更した点がある。(赤字のところ)「自らの職務と誇りとやりがいをもち」というところは、小学校と同じ言葉を使うようにした。(チームワークを大切にしながら進めていきたいという思い)
- 重点実践事項について … 今年度は「遊び込むこと」をテーマに保育を進めてきた。

(1)「自ら考える子ども」(自ら考え、進んで行動できる子ども)

- ・ 来年度も継続し、幼児が「やってみよう」と興味を持ち、活動を選択し、遊びこめるように学びを支える環境構成と教材の工夫を加え進めていきたい。幼児のどのような学びを支えていくか、教師自身が幼児の遊びを見取り、環境を見直し、再構成したり、幼児の考えを周りの幼児に広め生かしていけるようにしていく。
- ・ 幼稚園関係者評価で評価委員からあった通り、玉井幼稚園は、五感を使って遊びこめる環境に恵まれているので、さらに五感を使った遊びの工夫をし、遊びこめるようにしていきたい。
- ・ 考えたり、わかったりする楽しさや喜びを十分体験し、好きを育む活動の工夫をしていく。
- ・ 幼稚園関係者評価の反省をもとに、これからも「聞く力」を育てていくことが大切と考え、自分の気持ちについて友達とたくさん言葉をかわし、聞き合う体験を充実させていきたい。その中で、言葉による振り返り、言葉でのやり取りの場を大切にしていきたいと思っている。
- ・ 絵本や物語に親しむ環境の工夫として、担任以外の教員やボランティアに絵本を読んでもらう機会をさらに作っていきたいと考えている。

(2)「心豊かな子ども」(思いやりのある子ども)

- ・ わくわくシンキングタイムの充実 … 園児たちの様子を見てみると、自分の思いが通らないと声を荒げたり、泣いたり、手や足を出したりと、感情のコントロールが難しい様子の子が多く見られる。そこで、「⑤自分とは異なる思いに触れ、葛藤したり、折り合いをつけたりする場の保証」を加え、それを重点実践事項として入れた。いろんなケース、子どもが多くなってきているので、スクール・ソーシャルワーカーのアドバイスを受ける等しながら、より良い援助ができるようにしていきたい。
- ・ 「2 豊かな体験活動の充実」では、今までは3項目に分けていたが、幼稚園関係者評価や職員との話し合いの結果、ここを2点に絞った。細かく分けるのではなく、交流活動の充実でかっこ書きとして学年、地域などとした。年少(3歳児)にも無理のないような活動ができるよう考えている。
- ・ 自然体験、社会体験の充実、栽培活動やクリーン活動等を通し、心の豊かさなどの豊かな体験活動の充実を進めていきたい。

(3)「たくましい子ども」(目標に向かって挑戦できる子ども)

- ・ 玉井幼稚園では小学校の校庭、林も利用し、のびのびと遊べるように楽しく体を動かせるようにしたい。その中で、評価のアドバイスの中から、幼児期運動指針についても、発達段階に応じてどのような動きの遊びを取り入れていけるかということ、保護者にも工夫しながら伝えていけるようにしていきたい。
- ・ 「健康で安全な生活をする力の育成」では、命を守るための指導及び訓練をしていく。また、基本

的生活習慣の定着の啓発については、生活に必要な言葉「貸していいよ。」「手伝って待ってね。」「ありがとう。」等の言葉を身につけられるようにしていきたい。

令和8年度、主体的に遊び込む子供、主体的に遊び、遊びこむ力を育てていくために、幼稚園全体で同じ方向性で保育を実践していきたいと考えている。

【 大山小学校 】

(校長 澤藤 晃治)

重要な部分は大きく2点

- (1) 昨年度からの改定や刷新点について 「こどもどまんなか力」
- それぞれ下線部が新たな「地域」や「家庭」の部分となっている。
具体的には、この後お話しする学校関係者評価に関わる改善や、2030年度に改訂される新しい学習指導要領を少し先取りし、潮流に少しだけ合わせることで、そして、地域、子どもの現状に鑑み刷新する。
 - 青い文字は「こども真ん中力」に関すること
教育目標『めざせ！夢に向かってがんばる子』を受けて、下段、青い部分の「挑戦は夢を叶える第一歩～こどもまんなか力の挑戦～」としてある。つまり、教育活動の主役である子どもとその未来の成長を常に教育活動の意識の真ん中に据え、授業だけではなく、可能な限り様々なところで子どもを真ん中に据える実践を推進する。ただ、決して子どもの意見を丸呑みするということではなく、迎合するということでもなく、職員による十分な準備、支援、調整を行った上で、こどもを真ん中に置き、その主体性を発揮するような学校にしていきたい。
- (2) 「進んで学習する子」(自ら考えともに学び育つ子どもを育てる) 。
- 学校関係者評価では、全体としてAの評価はいただいたが、学校での自分たちの振り返りでは下記の項目でいくつかDの評価が見られていた。(学びを支える基盤づくり)
- 「家庭学習スタンダード」、「家庭学習の手引き」による家庭学習の習慣化と充実(自己マネジメント力)
 - 学校司書を活用した読書活動の推進
 - 「デジタル・シチズンシップ教育(含：タブレットの持ち帰り日常化)」及び「大玉を生きる教育(含：防災教育・復興創生)」により時代のよき担い手となる資質の向上
- これらについては、地域、家庭のご協力が必須である。(同一歩調で)
- 一方、学校には即効性よりも地道な働きかけが求められると承知している。家庭学習では丁寧な指導、それから図書では学校司書のイベントの充実、PCでは村教委の支援をいただいて、さらにDC教育の充実を考えている。「大玉を生きる教育」については、地域人材の更なる活用、それから総合学習の更なる大玉化などが想定される。
- (3) 「なかよく助け合う子」(進んで「ひと・もの・こと」に関わりながら互いの人格を尊重する心を育てる)では、
- 考え、議論する道徳科授業の徹底
 - SNSの出し方、当事者意識の高揚等
 - 環境保全を意図した係活動や委員会活動の展開
- が課題となっている。子どもによる主体的ないじめ対策、係や委員会活動を活用した環境保全の意識の高揚などを想定している。
- (4) 「健やかでたくましい子」(健康で安全な生活ができるようたくましい心身を育てる)
- 「粘り強さ」と「基本的な生活習慣」
 - 粘り強さについては、比較的体育的な粘り強さを意味している。水泳、中長距離走、縄跳びなど、これらのイベントの充実と、その達成感の享受を目指したい。
 - 基本的な生活習慣については、特にとりわけタブレット、スマホ、SNSがやはり大きな課題となっている。即効性は難しいことは承知しているが、地道に対策を講じていきたいと思う。

【玉井小学校】

(校長 五十嵐 洋之)

○ 教育目標も含めて今年度の経営運営方針と大きな変更はない。それぞれの領域で今年度の取り組みを継続し、進化させることを教職員で共通理解を図り、これまで実施してきた学力や体力向上策、豊かな心の育成等の充実を図っていききたいと思う。

○ 玉井小学校今年の漢字は、応募により「夢」に決定した。子どもたち一人一人が夢や目標を持ち、またそれに近づいたことを実感しながら、そして達成感を感じながら生活できるよう、一人一人を輝かせ、躍動する玉井小学校、そこにさらに上を目指そうというプラスワンチャレンジを加えたスローガンのもと、教育活動を進めていきたい。

(1)「自ら学ぶ子ども」(主体的に学び、学んだことを活用し、表現できる子ども)については、授業作りについてである。

○ 子どもが自ら考え、学び合う授業作りの質の向上に向けて、考えを繋ぐ教師のコーディネート工夫や、子どもが表現する場を効果的に設定するために、次年度も講師等を招聘しての授業研究会等を設定していきたい。

○ 学習の基盤作りに次年度も力を入れていききたいと思う。今年度から日課表を見直して朝の10分間を「読み、書き、計算、読書の時間」として授業の学びを定着させる時間としてきた。成果が見られてきているので、次年度も意図的、計画的に継続していきたい。

○ 学校評価アンケートでも課題となった読書活動を司書教諭、学校司書と連携を図りながらさらに充実させていきたい。

(2)「心豊かな子ども」(互いを認め合い、自他を大切にする子ども)

○ 道徳授業の更なる充実ということで、いじめの未然防止、親和的で規律ある集団作りに向け、「親切・思いやり」「公正公平・社会正義」の価値項目を重点に置いて、多様な価値観に触れる授業、考えを伝え合う授業の充実を図っていく。

○ 自己実現を目指す特別活動については、次年度も地域の人・もの・ことを効果的に活用した体験活動を充実させ、地域への愛着、愛情、誇りを持てるような取り組みを進めていきたい。現在新たに構想している内容もあるので、先生方と協議を進めていききたいと思っている。

○ 一人一人を大切に生徒指導については、今年度も重点にしてきた「子どもの良さを積極的に認め、賞賛し、価値づける指導」を土台として、自己肯定感や自立心、たくましさの育成に繋げていきたい。

(3)「たくましい子ども」(健康な生活へのめあてをもち、主体的に実践できる子ども)

○ 体力・運動能力の向上について、今年度の体力テストの結果から、持久力、柔軟性に課題があることがわかった。体育の指導計画を体力の実態に応じて柔軟に計画し、課題解決を図っていききたいと思う。また、今年度校内持久走記録会を設定した、それに向けて一生懸命頑張る児童の姿が見られた。次年度も取り組みを可視化したり、称賛する場を設定したりしながら、目標を持って体力向上に取り組めるように進めていく。

○ 健康マネジメント力の育成、安全教育については、メディアとの適切な関わり方を含めた健康的な生活習慣を関係機関、外部講師等と連携しながら、さらに実践力が高まるように計画していききたいと思う。また、交通事故防止、不審者、クマ対応等身近にある危機に対して、正しい判断で正しい行動ができるよう、実効性のある指導、訓練等を計画していききたい。

次年度令和8年度も子どもたちが自分の良さを伸ばし、発揮し、他者と豊かに関わり合いながら、充実した学校生活を送ることができるよう、この計画をもとに学校経営を進めていききたいと思う。

【大玉中学校】

(校長 久保寺 徹)

○ 現在の3つの教育目標を見ていただくと、「意欲を持って」とか、「認め合い高め合う」というものがあるのだが、「自ら心身を」というように「自ら進んで」ということが、すごく織り交ぜられた教育目標だと改めて気付かされた。教育目標は変わっていないが、この「自ら進んで」というところが、今の中学生に求められる部分なのかなと…。数年前からではあるが、これはなかなか達成するのは難しいのではないかと正直思うところである。

- 子どもたちは、言われたことはしっかりできるが、「自分で考えて、自分から動き出す」のはなかなか難しいので、継続してそれを目標とする。しかも、その自ら進んでというところをピックアップして、子どもたちに意識づけさせたいと思っている。

(1) 学校経営の基本方針

- 「学校経営・運営ビジョン」の上の半分の大きな四角の中は、方針を示している。紫色の太字の部分については、令和7年度より継続している部分である。
- 「楽しい学校」… 言葉はちょっと幼稚かもしれないが、「わかるできるの授業をベースに魅力と必要性の高い学校で、生徒が自己有用感を感じ、教職員がやりがいを感じられる学校」という意味を込めている。ただ単に面白い、楽しいというだけではない学校ということである。
- 「自ら進んで行動できる生徒の育成」として、今年度から自主自律の実践という言葉を使っている。そして、自己マネジメント力、これがなかなか難しいのだが、「自分を知って、そして先を見通して自分なりの計画を立てて実践する」、「自分自身で自分をプロデュースする」というようなことができるといいと考えている。
- 「生徒の手で創り上げる学校」、これは自己有用感を高めるためというのものもある。言われたことはやる子どもたちだが、それではやらされてる活動かなというふうに思う。もちろん生徒に好き勝手にやれというわけでない。教師側が上手にお膳立てをして、子どもたちが「自分たちがやったんだ」と満足感を得られるような、そんな教育活動ができるといいなというふうに理想を掲げている。
- 自分なりのアイデアを出して、学校を置き換えるんだというような高い意識をもつ教員を育てながら学校を経営していきたいと思っている。

(2) 大玉ならでの教育

- 「幼・小・中の連携…おおたま学園の意義と充実した取り組み」というふうに今年度はしている。先生方の中には、この幼・小・中の連携でいろいろやるが増えると思う人もいるかもしれないが、その意義をしっかりと理解した上で、充実した取り組みができるようになるといいと思っている。
- 「地域理解と地域貢献」では、今年度総合的な学習の時間の充実というふうにしてきた。正直言うとマンネリ化しつつある。この部分は外さないが、教育課程や年間計画への位置づけ等で総合的な学習の時間の内容を少し見直そうかなというふうな意味合いを込めてこのように変更している。

(3) 「知」（「学校の学習だけで偏差値50を目指す授業改革」の実践による個々の学力向上）

- 「学校の学習だけで偏差値50を目指す授業改革」これはなかなか難しいと思う。家庭学習の大切さというのものもあるのだが、そこはやはり教員として管理するのはなかなか難しい。家庭の教育力もバラバラなので、まず学校でできることは、学校の学習で平均を取れるような授業だったり、学習活動ができるように、先生方の意識を持っていきたいというようなことを掲げている。
- ①の 授業における「身につけさせたい力を明確にした取り組み」というのは、現職教育研修や校内研修で実践して、今度令和8年で3年目の研究内容になる。
- ICTの更なる活用とデジタル・シチズンシップ教育の充実ということで、次年度Chromebookへの変更というのも出てくるので、ぜひそういったところもさらに対応して充実させていきたいと思っている。
- 実践目標に家庭学習はプラスアルファと捉え、（かなり偏った考えで大変恐縮だが）そのぐらいの気持ちを持って先生たちに授業の改善を図って欲しいと思っている。

(4) 「徳」（キャリア教育の理念を生かした教育課程を編成し、どんな大人に育てるかを見据え「基礎的・汎用的脳威力の育成」）

- 先ほどの評価についても結構出てきたのだが、キャリア教育というものを大きく出していきたいというふうに考え、今年度から変えている。キャリア教育というと、どうしても進路とか将来に向けてというふうになってしまうのだが、要はこの①の「基礎的・汎用的能力の育成を意識」である。キャリア教育はどんな能力を育てるのかということ、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力（自己マネジメント力と似たような感じ）、課題対応能力、そしてキャリアプランニング能力という4つの能力である。これらは大人になったときに必要な能力群なので、「どんな中学生にしたいかとか、なって欲しいとかではなくて、どんな大人になってほしいか」というような視点で教育をやっていきましょう。」ということである。その都度子どもたちにもそんな話をしていきたい。

(5)「体」(望ましい生活習慣の確立に向けた健康マネジメント力の育成と体力向上)
。今年度と同様。健康マネジメント力という言葉は今使っているが、単なる体力向上だけではなく、健康に生きていくための知識、そして実践力を身につけさせたいと思っている。

(6)「絆」(社会に開かれた教育課程を実現し、地域と共に歩む学校づくり)

- 。これは大玉の本当に特徴だというようなところである。家庭、地域、関係機関との連携強化というところで、部活動の地域展開を向けてという言葉も含めた。
- 。積極的な情報発信とペーパーレス化ということで、もう既に始めているのだが、学年だよりをデジタル発行している。紙ではなくて、配信で保護者に届けている。ホームページやInstagramを引き続き実践していきたいと思う。



ちょっと校長の思いが強すぎて、非常に申し訳ないところもあるが、これら小学校の夢を受けた中学校の教育ができるといいというふうに考えている。

③ 意見交換 → 承認

(座 長) 校長先生、そして副園長先生本当にありがとうございました。学校評価報告を受けて、この運営ビジョン作成されているんだなと感じております。ここで意見交換ということですが、各校、各園について何かございますか。

(CS委員) ~特にない様子~

(座 長) はい。毎年ここで承認ということで、承認される方は、拍手をもってということをお願いします。

(CS委員) ~拍手多数~

(座 長) ありがとうございました。

校長先生、副園長先生、先ほど申し上げたように、学校関係者評価などを受けて柔軟に作成されているなど毎年感じております。本当に頭が下がります。久保寺校長先生のお話の最後にもありましたが、やはり幼稚園、小学校、中学校で子どもたちが夢に向かって進んでくれることを願っております。

それでは、(2) 令和8年度おおたま学園CS委員会の運営を振り返ってということで、事務局より説明をお願いします。

(2) 令和7度おおたま学園CS委員会の運営について (事務局 星 雅人)

① 令和7年度おおたま学園CS委員会を振り返って

(星) 資料2になります。CS委員の方々から今年度の振り返りということを出していただき、多くのご意見をいただきました。今日配布でしたので、時間を取りますのでちょっと見ていただきまして、その後、来年度の話を進めたいと思います。

(CS委員) ~資料を読んでいただく~

(星) よろしいでしょうか。成果を見ますと、今年1年間事務局としてもいろいろ準備してきました、

報われる部分がたくさんありました。元気づけられたようで、来年も頑張ろうと思う気持ちです。課題のところで全てのことを解決するわけにはいかないのですが、ご意見をいただいたところを来年度に生かしたいなというふうに思っています。私もこれ見まして、同じ気持ちといたしますか、できたらいいなと思うところもいくつかありました。来年度計画の案にはなりますが、この後ご説明をしたいと思います。



② 基本方針・年間計画（案）の説明 ※ 修正点のみ記載 ～他は省略～
ア 令和8年度の重点について（案）

- 各学校では、CS委員による通常の学校生活のフリー参観を行い、その後に学校運営協議会を実施する。協議会での熟議においては、CS委員と全職員との意見交換を中心に進めるが、児童生徒の熟議への参加なども考慮し、子ども理解・学校理解・家庭理解のより一層の深まりとともに、子ども、学校、家庭、地域の協議の活性化を目指す。
- おおたまコミュニティ広場（大玉村教育フォーラム）は、保護者、村民の方々が年に1回集い、子どもたちの身近な課題や大玉村の未来像について語り合う場として実施する。その際、保護者村民ができるだけ多く参加できるよう、呼びかけ・周知を図る。なお、内容・方法については、CS委員会において協議する。限られた時間で協議が深まるよう組織・運営方法を工夫する。

イ 令和8年度の計画（案）

月	日	曜	会議・主な活動
5	7	木	第1回CS委員会 ※おおたまふれあいフェスタ「スポーツ交流イベント」（幼稚園）打ち合せ
	21	木	おおたまふれあいフェスタ（幼）「スポーツ交流イベント」
	上旬		おおたまふれあいフェスタ「田植え体験」（小4）→任意協力
6	23	金	玉井幼小オープンスクール（自由参加）
7	10	金	玉井幼小学校運営協議会
8	27	木	第2回CS委員会（小・中のみ） ・おおたまふれあいフェスタ「昔遊び体験」の実施計画について ・各校園ごとの熟議
9	9	水	大玉中オープンスクール（自由参加）
	15	火	大玉中学校運営協議会
10	2	金	おおたまふれあいフェスタ「昔遊び体験」、「障がい者スポーツ体験」、「中学校体験入学」
11	13~14	金土	全国コミュニティ・スクール連絡協議会総会及び研究大会in京都
	20	金	大山小オープンスクール（自由参加）
	26		第3回CS委員会 ・ふれあいフェスタ反省と改善 ・おおたまコミュニティ広場の原案検討
12	上旬		おおたまふれあいフェスタ「そば打ち体験」（小5）

	11	金	大山幼小学校運営協議会
1	14	木	第4回CS委員会 ・おおたまコミュニティ広場の最終確認 他
			1月～2月学校関係者評価実施
2	20	土	第8回おおたまコミュニティ広場(第17回大玉村教育フォーラム) ・第1部 講演会<予定> ・第2部 フリートーク (小グループによる熟議)
2	25	木	第5回CS委員会 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針 → 承認 他

③ 意見交換

(座長) 今、星先生から今年度の反省や課題を含めまして、来年度の計画ということで説明がありました。ふれあいフェスタにつきましては、やはりクマの問題があるということで、大きく変更になっております。これを踏まえまして、皆さんから何かご意見等あればお願いしたいと思います。

CSのメンバーで昔遊びを担当するというのはとてもいいのかなと思います。いつも何をやっていいかわからないということで終わってしまって、先生方におんぶに抱っこだったので、この項目についてはCS委員会が全部仕切って、なるべくここは先生方に負担をかけないということで進めていけるというのは非常にいい改善策と思っています。

何かありますか。。新年度に向けて…。

(浅和副会長) 各校園の学校運営協議会は、だいたい午後1時半とかに始まり、夕方頃までになるのでしょうか。

(星) 私の勝手なイメージなのですが、午後1時半ぐらいから5時間目が始まるので、5時間目の授業を参観していただくと大体1時間ぐらいです。2時半ぐらいに終わりますので、大体3時ぐらいから学校運営協議会を90分ぐらい行い、4時半前ぐらいには終わるような形にしたいなというふうには思っているとこです。

(浅和) はい、わかりました。それから、オープンスクールについてはどうなりますか。

(星) ご案内はしますが、都合のつく方が参加ということでいいかなと思っています。メインは、学校運営協議会ですので、その時に集まっていたいて、普段の子どもたちの様子を見ていただくのが一番いいのかなと…。今までのオープンスクールでは、決まった授業しか見ていないというのもありましたので、いろんな先生方の授業を見ていただくのもいいのかなと思います。

(浅和) わかりました。ありがとうございます。

(座長) その他確認しておきたい方、はい。

(吉田副会長) コミュニティ広場(教育フォーラム)を次年度は講演会ということで検討しているということなのですが、その後グループ討議をするのであれば、(個人的な希望ですけれども)、子どもも聞いてわかる話であればいいと思います。

また、グループ討議の中に児童生徒も入るのか入らないのか。今まで入る流れになっていたのですが、子どもが入ったのグループ討議になるのか、それとも大人だけなのか…。子どもも参加できるのであれば、そのような流れを作っておき、実際子どもの意見を聞いたりできるので、その場合は子どもも理解しやすい内容にしていただければと思います。(ex.農業のこと…)

講演の内容は、子どもが参加するかしないかにもよるのかなと思いました。

(星) 私としては、やはり子どもが入って一緒に話し合った方がいいのかなと思っています。ですので、子どもたちも同じ目線で話を聴ける講演会の方がいいのかなと思いますし、その辺は協議しながら、人選なり、あとどういうふうに持っていくかということについても相談していきたいとは思っています。ちょっと手探りのところが多くてははっきり言えないのですが、できれば今までと同様のスタイルで

フリートークができればいいと思っています。

(座長) はい。その他確認事項等大丈夫でございますか。では先に進めてまいりたいと思います。

(座長) では、続いて、「(3) 地域学校協働活動評価・検証」について事務局より説明をお願いします。

(3) 令和7年度地域学校協働本部事業評価・検証結果について

① 事務局より説明 (協働本部事務局 佐藤 勇人)

○ 第2回協議会実施後、委員の方々に評価・検証いただいた。今日はそれをまとめたものを説明。その後ご意見をお伺いする。

ア 「地域学校協働活動本部事業」実施状況報告について <評価：平均 3.5 / 4>
・活動の範囲が大きく充実した内容である。今後、活動の幅をあまり広げないで、地道に継続して行ってほしい<他については略>

イ 「地域学校協働活動本部事業」アンケート集計結果について <評価：平均 3.5 / 4>
・事業を通して、子どもたちは成長していると感じる。(確かな手応え)
・ボランティアの方々の交流や先生方とのコミュニケーションの機会を作っていくことが大切<他については略>

ウ 評価について
・活動の4つの柱があるのに、まとめて評価というような形になっており、非常に難しいのではないか。評価項目についても改善すべき点が多いので、併せて検討する。また、CS委員会の際に各活動の途中経過等について随時説明していく。

② 意見交換

(座長) 皆さんからご意見がありましたらお願いします。

(CS委員) ~特にない様子~

(座長) それでは、次に進みます。(4) 令和7年度おおたまコミュニティ広場アンケートについてご説明をお願いします。

(4) 第7回おおたまコミュニティ広場(第17回大玉村教育フォーラム)アンケート結果から

① 事務局より説明 (CSディレクター 佐藤 勇人)

~資料に基づき説明…主なものだけ下記に列挙~

【参加者数】94名 【視聴回数】84回

【アンケートから】*回収率85%

ア 『1部』小・中学生の発表について「とてもよい」84% 「よい」16%
イ 『2部』フリートークについて 「とてもよい」72% 「よい」26% 「未回答」2%
ウ 自分で何か取り組んでみたいと思う「とてもそう思う」47% 「そう思う」51%
「あまり思わない」2%

【自由記述から主なものを抜粋】

- 未来を担う子どもたちの発表はとても素晴らしかったです。地域の生の声で学び、考える環境は子どもたちにとっても貴重なものだと感じました。(教職員)
- 自分たちで考え、調べ、体験して、さらに発信するという行動力もすごいと思いましたし、授業で大玉村の良さ、未来を考えるきっかけができるこの仕組みがとても良いと思います。(CS委員)
- いろいろな年代の方々の意見やお話を聞けてとても素晴らしい時間を過ごせました。参加してよかったと思います。(保護者)
- 地域の様々な立場から意見を出し合い、大玉村の未来について考えるよい機会だった。この場で出た

意見が、これからの村の発展につながればいいなと思った。(中学生)

○小学生1人、中学生1人だと萎縮してしまう姿があった。小学生2人や中学生2人の方がいいと思う。
(教職員)

○自分は前は良いところだけだったんですけどでも、コミュニティ広場を通して、〇〇をこういうふう
にすれば良くなる」というふうに考え方が変わりました。(小学生)

○昔に比べると明らかに大玉村は良い村になっていると思うので、この会を通して、また良くなるとい
いと思います。少しでも自分にできることはやっていき、これからの生活を豊かなものにしていきたい
です。(中学生)

○コミュニティスクールとしてとりくんでほしいこと、コミュニティ広場で行ってほしいこと

- ・何かイベント等があるといい(小学生)
- ・講演会でも久しぶりにいいのではないかと(教職員)
- ・入口を低くして、広く開かれたそういうコミュニティ広場もいいのではないかと(教職員)

(座長) ありがとうございます。21日の開催、そして、ここまでまとめていただいて本当にあ
りがありがとうございます。非常に嬉しいお言葉と、今後こうした方がいいよという激励のアンケートで、
私共としましても本当に勉強になるなと思いました。これを踏まえて、皆さん、何かこれだけ言っ
ておきたいとか、コミュニティ広場の感想でも構いません。何かございましたら…

(CS委員) ~特にない様子~

(座長) 大丈夫でございますか。ご協力ありがとうございました。

(5) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【大玉村概要】について (事務局 星 雅人)

① 事務局より説明 <資料に基づき説明…児童生徒(調査対象小5・中2)の実態>

ア 体格について(対象:小学校5年生、中学校2年生)

- ・男女とも中学生も小学生もほぼ全国平均並み。ただし、高度肥満児の割合が若干全国に比べると、
小学校の場合少し数値が高いが、中学校になるとそれが0%になる。(部活動の影響?)

イ スポーツテストの結果について

- ・全国から見て少し下回っているものもあるが、大きく結果が悪いというわけではない。これから各
校でいろいろ運動好きにする取り組み(持久力のマラソンetc.)を行い、全体として引き上げていけ
ればいい。

ウ 質問調査

- ・特に大きく全国とは変わらない。(ただし、男女による若干の差がある。睡眠時間が少し短い傾向)

② 質疑応答

(座長) ありがとうございます。これにつきまして皆さん何かご意見ございますか。小学生が肥
満傾向というところで、心配な部分もございます。大玉の米が美味しいからちょっと食べ過ぎてし
まうのかなってところなのかなと…。

(CS委員) ~特にない様子~

(座長) 続きまして、その他ということになっております。

(6) その他…全国コミュニティ・スクール連絡協議会会報(特別号)から

(星) 今年全国大会が仙台市で行われ、教育長と私で参加してきました。さらに、村の教育委員の方々
も視察ということで、分科会にも参加して全国の様子をじかに聞いてきたところです。

内容につきましては、事務局からまとめたものが出ておりますのでご覧ください。初めて参加し
たのですが、感想としましては、やはりどの地域もこのCS委員会を立ち上げておられて、どう
いうふうに取り組んでいけばいいのかなと手探りでやってる自治体が非常に多いです。(学校と地
域が協力し合って試行錯誤しながら推進)北は北海道から南は沖縄までの自治体の方が来ており、

有意義な時間を過ごさせていただいたと思います。

来年は京都で行われますので、ぜひCS委員の方で参加できるという方にはご案内したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(教育長) 今指導主事から話がありました全国のコミュニティスクールの連絡協議会の会合について、こちらの(資料)見開き2ページ目の一番下のところにQRコードが載せてあります。こちらのリンクから、この仙台で行われた全国大会の開会式とかパネルディスカッションと併せて、その後の各分科会の実際の様子も動画の中にも含まれています。ただし、最後の第5分科会だけは子どもたちが熟議に参加していたので、子どもの個人情報の保護ということで動画はありません。全体の開会式、パネルディスカッションから第1分科会から第4分科会までの内容については全て含まれております。動画は長いのですが、自分で「見てみたいな」、「聞いてみたいな」というところだけでも結構ですので、お時間がある時に見ていただければと思います。よろしくお願いいたします。

6 今年度の総括 (CS委員会会長 矢吹 吉信)

皆さん、今年度1年間大変ご理解とご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。本日(の案件が)盛りだくさんということで、なかなか皆さん一人一人にマイクを回してご意見を頂戴する機会がなく申し訳ございませんでした。今年の振り返りということで、いろいろお話もお聞きできなかったのですが、ご理解をいただければと思います。

ただ、時代の変化やいろんな環境の変化によって課題が出てきております。クマの問題もありましたが、そういったときでも、事務局を通して柔軟に実施できました。来年度も大分取り組み内容を変更する点がございますが、これも保護者の方に安心材料になればと思っています。

来年度も皆様にご理解とご協力いただきながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。今年1年間本当にありがとうございました。



7 その他

- ・ 特になし

8 閉会の言葉 (CS委員会副会長 吉田 都)

皆様、長時間にわたりお疲れ様でした。今年度最後の委員会を無事終えることができました。また、本年度1年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

以上をもちまして、令和7年度第9回おおたま学園CS委員会を終了いたします。気をつけてお帰りください。